

【実践報告】

「教職実践演習（中・高）」の報告

広島文教大学
教育学部教育学科

教授 黒木 晶子
教職センター

特任講師 小川 雅史

1 はじめに

教職実践演習は、教職課程全体を通じて身に付けるべき資質能力を最終的に形成し、その確認を行うための総合実践科目として位置付けられている。本授業では、教員として求められる事項である「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「幼児・児童・生徒理解に関する事項」「教科等の指導力に関する事項」について、講義や演習、討議を通じて理解を深め、それぞれの能力を実践的に養うことを目的としている。

また、学生は本授業を通じて、教員になる上での自身の課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能を補い、その定着を図ることで、教職生活を円滑にスタートできるようになることが期待される。

2 本授業の実施方法

本授業では、演習（指導案の作成、模擬授業・場面指導の実施等）、事例研究、グループ討議を適切に組み合わせて実施することにより、教育の専門性に関する最新の知識・技能の理解、生徒・保護者・教職への理解、人間性の涵養並びに教育の実践的指導力の向上を目指している。

授業の実施にあたっては、国語教育コース及び英語教育コースの担当教員と教育委員会や中学校・高等学校の教育現場での実務経験を有する教員が協力体制を構築し、効果的な指導が行えるよう取り組んでいる。

3 授業計画

回	月日（曜日）	内容	担当教員
1	10/ 1（火）	オリエンテーション —教職実践演習の意義、授業日程、授業観察実習について—	黒木・武田・猪川
2	10/ 8（火）	特別支援教育の意義及び理解（1）（初等教育専攻と合同で実施）	兼栞 （外部講師）
3	10/15（火）	特別支援教育の意義及び理解（2）（初等教育専攻と合同で実施）	兼栞 （外部講師）
4	10/22（火）	ICT教育のあり方（1）—校務の情報化におけるICT活用能力育成—	小川

5	10/26 (土)	第38回広島文教大学教育学会研究発表大会に参加	黒木
6	11/ 5 (火)	ICT教育のあり方 (2) —オンライン授業・デジタル教科書・生成AIと教育—	小川
7	11/12 (火)	国語科・英語科教育の実践的アプローチ (コース別) (1)	橋村・戸井
8	11/19 (火)	国語科・英語科教育の実践的アプローチ (コース別) (2)	森・上利
9	11/26 (火)	国語科・英語科教育の実践的アプローチ (コース別) (3)	猪川・上利
10	12/ 3 (火)	道德教育の理解 (初等教育専攻と合同で実施)	戸井
11	12/10 (火)	国語科・英語科教育の実践的アプローチ (コース別) (4)	黒木・武田
12	12/17 (火)	授業観察実習 (1) —英語科の模擬授業・批評会—	戸井
13	12/24 (火)	授業観察実習 (2) —国語科の模擬授業・批評会—	猪川
14	1/14 (火)	保護者との連携・協力の理解 —保護者・地域対応— (初等教育専攻と合同で実施)	西村
15	1/21 (火)	まとめ—私の目指すべき教師像—	黒木

4 各授業回の概要

(1) オリエンテーション—教職実践演習の意義, 授業日程, 授業観察実習について— (第1回)

教職実践演習は、教職課程全体を通じて身に付けるべき資質能力を最終的に形成し、その確認を行うための総合実践科目として位置付けられている。本授業では、教員として求められる事項である「使命感や責任感, 教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「幼児・児童・生徒理解に関する事項」「教科等の指導力に関する事項」について、講義や演習, 討議を通じて理解を深め、それぞれの能力を実践的に養うことを目的としている。この目的を達成するために、「演習 (指導案の作成, 模擬授業・場面指導の実施等) や事例研究, グループ討議を適切に組み合わせて実施すること, 更に教職経験者を含めた複数の教員が連携して実施することについて説明を行った。また, 第12回・第13回に実施する授業観察実習の進め方について説明した。

(2) ICT教育のあり方 (第4回, 第6回)

○第4回「校務の情報化におけるICT活用能力育成」

「教育の情報化に関する手引き—追補版— (文部科学省2020年6月)」では、教育の情報化について大きく四つの柱が示された。まず一つ目は子どもたちの情報活用能力の育成について。二つ目はプログラミング教育の推進について。三つ目は教科等の指導におけるICTの活用について。四つ目が校務の情報化の推進についてである。校務の情報化の基礎並びに中等教育におけるICT活用教育の実践例を学修した。子どもたちの情報活用能力を育成するには、教師自身の活用能力の向上が必要であることを理解し、卒業までの学修すべき内容について取り上げた。また、校務の情報化については具体的な演習を通して学修し、学校で扱う情報を保護するために、暗号化や情報セキュリティの重要性について、実践を通して学修した。最新の取組として、ライフログとスタディログを教職員が共有できるダッシュボードの機能について触れ、一人の生徒を教職員みんなで見守るシステムが導入されつつある現状を学修した。

○第6回「オンライン授業・デジタル教科書・生成AIと教育」

GIGAスクール構想により、全ての義務教育学校にICTの環境が構築された。コロナ禍で取組が広まったオンライン授業は、伝染性疾患の流行や災害時にも学びを継続できる利点がある。実施する際の注意事項及び課題, 必要なICT機器, アカウントやドメインといったオンライン授業を運営する際に必要となる基礎的な知識に加え、活用のための基本的なスキルについて学修した。また、フォーム

を使った実践例を体験し、リアルタイムに生徒の考えをつかみ、授業展開に活かせることについて実体験を通して学修した。令和6年度から順次導入されていくデジタル教科書の長所と短所を取り上げ、活用法について学修した。また生成AIを実体験することにより、教育に活用する際のメリットとデメリットについて、文部科学省のガイドラインや実践例を通して学修した。（担当：小川）

(3) 国語科・英語科の実践的アプローチ（第7回～第9回、第11回）

これまでの専門科目における学修を振り返るとともに、今後の学修にどのような展望を持つべきかを考える機会を設けた。国語教育コースの学生は日本語学・日本文学・書写書道教育学・国語科教育学の分野において、英語教育コースの学生は英語学・英語文学・英語科教育学の分野において、それぞれ実施した。

(4) 授業観察実習（第12回・第13回）

国語教育コース・英語教育コース合同で授業観察実習を行った。

- ①英語科の模擬授業・批評会（第12回）：英語教育コースの学生が50分間の模擬授業を担当した。授業では、中学校3年生の教材を取り上げ、英語教育コースの学生全員がグループに分かれ、各グループの生徒役の学生に対して教材の音読指導を行った。授業後には、国語教育コースの学生も含め、全員で批評会を行い、授業内容や指導方法について意見交換を行った。
- ②国語科の模擬授業・批評会（第13回）：国語教育コースの代表学生が50分間の模擬授業を担当した。授業では、中学校2年生の説明的文章教材を取り上げ、グループ活動を中心に進めた。授業後には、英語教育コースの学生も含め、全員で批評会を行い、授業内容や指導方法について意見交換を行った。

(5) 第38回広島文教大学教育学会研究発表大会（第5回）

分科会3での本学卒業生による「中等教育に関する実践・研究発表」（東広島市立磯松中学校・沖田壮姿教諭（教育学科1期生））に続き、全体会では本学教育学部教育学科の川瀬瑠美助手による講演（演題：「子ども支援における教育と福祉の連携：日本と台湾の比較から見えたもの」）が行われた。

(6) 特別支援教育の意義及び理解、道德教育の理解、保護者との連携・協力の理解（第2回・第3回、第10回、第14回）

「特別支援教育の意義及び理解（1）・（2）」（第2回・第3回）、「道德教育の理解」（第10回）、「保護者との連携・協力の理解」（第14回）は初等教育専攻と合同で実施した。（詳細については、「教職実践演習（小学校）」の報告を参照されたい。）

(7) まとめ—私の目指すべき教師像—（第15回）

第15回では、これまでの学修内容を踏まえ、学生それぞれが考える「優れた教師に求められる資質」についてグループ討議を行い、意見を共有した。その後、グループでの討議を基に、各学生が、自身が考える「優れた教師に求められる資質」について整理し、まとめた。

○学生の「学修記録」より（抜粋）

今回の講義を受講して、優れた教師に求められる資質について改めて考えることができた。優れた教師に求められる資質の中で、私が最も大切だと思うものは、学び続ける力であると考えている。優れた教師に求められる資質はたくさんあると思うが、その中でも学び続ける力は教師という仕事に携わる上で必要不可欠な力であり、優れた教師は常に様々な方法で学び続けている。日々新しいことが教育にも入ってきている中でより良い教育を提供するために、私も教員になったら現状に満足せず、学び続けていきたい。（後略）

5 成果と課題

1年次の「生徒の理解」、2年次の「学校教育の体験活動（中・高）」、3年次の「教育実習Ⅳ」、4年次の「教育実習Ⅴ・Ⅵ（本実習）」を経て、4年次後期に実施される本授業は、これまでの体験活動・教育実習科目の集大成であり、教員としての職務に臨むための最終準備段階に位置付けられる。

今年度は、授業回によっては、初等教育専攻と合同で実施することにより、校種を超えた共通の学びを得る機会を持つことができた。また、国語教育コース・英語教育コースそれぞれの専門的観点から実践的アプローチを考える回も設け、各専門領域を深めることの重要性を改めて確認した。

一方で、4年次後期に実施される本授業では、卒業後の教員としての職務を見据え、より実践的な内容を強化する必要がある。本実習前に重点的に扱うべき内容と、卒業前に改めて学ぶべき内容を整理し、授業の構成を見直していくことが求められる。

今後も、こうした課題を踏まえ、本授業の更なる改善を図っていく。